

秋 田 市 長  
穂 積 志 様

**新たな息吹を  
吹き込むための  
要 望 書**

～秋田市とのさらなる

連携強化へ向けて～

平成24年11月12日

秋 田 商 工 会 議 所

会 頭 渡 邊 靖 彦



## 要望の主旨

秋田商工会議所は、「中心市街地再開発の竣工」と「秋田港シー&レール構想の実現」に目途をつけることを最大の目標として活動してまいりました。

再開発については「エリアなかいち」がオープン、秋田港は日本海側拠点港に選定され、国際コンテナターミナルも竣工し、釜山経由のウラジオストック直行航路が運航を開始いたしました。

しかし、これらはいずれもゴールではありません。成果を挙げなければ、これまでの努力と投資が無駄になってしまいます。

まちづくりに関して、秋田市では、中心市街地を県都の顔として都市機能を高めようとする「コンパクトシティ」を目指しております。「コンパクトシティ」の根幹をなす「訪れる人による賑わいづくり」では、「エリアなかいち」はオープンしたものの、中心市街地の歩行者・自転車通行量は、目標である「休日4万2千人」の85%しか達成しておらず、前年と比べても横ばいの状況にあります。

今後、「エリアなかいち」を核に、中心市街地のさらなる歩行者空間整備、賑わい空間整備、来街環境整備をは

かり、交流人口の拡大へ向け都市観光への取組強化の政策がなければ、到底目標は達成できません。

まさに、まちづくりと観光が一体となって、中心市街地活性化基本計画のコンセプトである「城下町ルネッサンス」を体現することこそが、今求められております。

当所では、このような考え方のもとに、コンパクトシティの実現に向けた提案を中心に、要望という形でまとめました。

また、地元への経済波及効果が期待される「新庁舎建設等に関する地元元請発注」、県経済を牽引する「秋田港の利用拡大へ向けた取組み強化」、地域経済活性化に向けた各地域や業界の意見等についても、当商工会議所の総意として要望いたします。

秋田商工会議所は、秋田市の商工部のみならず、総務、企画、建設、環境、都市整備等各部の連携をもとに「まちづくり」に向けて取り組んでおります。

つきましては、是非、これらの要望の趣旨をご理解願いますとともに、秋田市のあるべき将来像を官民で共有し、ともに努力いたしたいと存じますので、前向きなご回答をお願いいたします。

# 重点要望項目一覧

## 1. コンパクトシティの実現へ向け

### 更なるまちづくりと都市観光の推進を！

#### (1) 中心市街地の歩行者空間整備と来街・回遊対策の促進

- ① 仲小路の全天候型歩行者空間整備ならびに歩行者専用道路化の推進 9  
【継続】
- ② 秋田市大町のコミュニティ施設整備への支援 【新規】…………… 10
- ③ イベント会場の全天候型対策の推進 【継続】…………… 10
- ④ 広小路・中央通の一方通行解除 【新規】…………… 11
- ⑤ 自転車で来街しやすい環境づくり促進 【継続】…………… 11
- ⑥ 地域イベントを支援する市民ボランティアの組織化 【継続】…………… 12

#### (2) 都市観光の振興へ向けた取り組み強化

- ① 映画ロケの更なる誘致に向けた環境整備 【新規】…………… 14
- ② カジノ法案の区域指定へ向けた取り組みの推進 【継続】…………… 14
- ③ 竿燈まつりの賑わい創出を検討する組織の設置 【新規】…………… 15
- ④ 佐竹史料館の充実化 【新規】…………… 15
- ⑤ 秋田藩の中心市街地における保存拡充 【新規】…………… 15
- ⑥ 食のイベントにおける臨時営業許可の見直し 【新規】…………… 15
- ⑦ 秋田市観光クチコミ大使への市観光施設の入場料免除 【新規】…………… 16
- ⑧ 秋田駅・秋田空港での歓迎民謡放送の推進 【新規】…………… 16

## 2. 新庁舎建設等に関する地元元受発注の推進を！ …… 18

【継続】

## 3. 秋田港の利用拡大へ向けた取り組み強化を！

- (1) 秋田港利用のインセンティブ措置拡大と上海航路の開設 【新規】…………… 18
- (2) 延辺州との貿易貨物の発掘 【新規】…………… 18
- (3) 秋田港と高速道路を結ぶアクセス道路整備 【継続】…………… 18



# 個別要望

# 要望項目一覧

## 1. コンパクトシティの実現へ向け

### 更なるまちづくりと都市観光の推進を！

#### (1) 中心市街地の歩行者空間整備

- ① 仲小路の全天候型歩行者空間整備ならびに歩行者専用道路化の推進  
【継続】◀重点▶
- ② 仲小路西側街区の融雪および街路灯の早期整備 【継続】
- ③ 中通地区と川反飲食街を直接結ぶ歩行者動線の整備と誘導表示の設置  
【新規】
- ④ 都市観光の顔としての川反通り環境整備 【継続】

#### (2) 中心市街地の賑わい空間の更なる整備

- ① 秋田市大町のコミュニティ施設整備への支援 【新規】◀重点▶
- ② イベント会場の全天候型対策の推進 【継続】◀重点▶
- ③ 美大・社会貢献センター等の中心市街地への設置 【継続】
- ④ 産業会館跡地の有効活用の促進 【新規】

#### (3) 中心市街地への来街促進と回遊性向上

- ① 広小路・中央通の一方通行解除 【新規】◀重点▶
- ② 自転車で来街しやすい環境づくり促進 【継続】◀重点▶
- ③ 秋田駅西口バスターミナルの建替え促進【新規】
- ④ 川尻広面線横町工区の25年度事業着手 【継続】
- ⑤ 中心市街地へのアクセスを改善する各種道路計画の見通しの明示 【新規】

#### (4) 商店街等活性化支援策の充実

- ① 地域イベントを支援する市民ボランティアの組織化 【継続】◀重点▶
- ② 中心市街地活性化協議会に対する支援 【継続】
- ③ 中心市街地商業集積促進補助金の継続 【継続】
- ④ 商店街街路灯整備支援の充実 【継続】
- ⑤ 商店街ソフト事業補助金の拡充 【継続】
- ⑥ 商店街空き店舗対策の拡充 【継続】

## (5) 都市観光の振興へ向けた取り組み強化

- ①映画ロケの更なる誘致に向けた環境整備 【新規】《重点》
- ②カジノ法案の区域指定へ向けた取り組みの推進 【継続】《重点》
- ③竿燈まつりの賑わい創出を検討する組織の設置 【新規】《重点》
- ④佐竹史料館の充実化 【新規】《重点》
- ⑤秋田藩の中心市街地における保存拡充 【新規】《重点》
- ⑥食のイベントにおける臨時営業許可の見直し 【新規】《重点》
- ⑦秋田市観光クチコミ大使への市観光施設の入場料免除 【新規】《重点》
- ⑧秋田駅・秋田空港での歓迎民謡放送の推進 【新規】《重点》
- ⑨秋田市中心市街地でのWiFi環境の整備促進 【新規】
- ⑩国民文化祭開催に併せた「東北六魂祭」の誘致 【継続】
- ⑪秋田美人ご膳事業への支援 【継続】
- ⑫「秋田かやき」への支援 【継続】

## 2. 新庁舎建設等に関する地元元受発注の推進を！

【継続】《重点》

## 3. 秋田港の利用拡大へ向けた取り組み強化を！

- (1)秋田港利用のインセンティブ措置拡大と上海航路の開設 【新規】《重点》
- (2)延辺州との貿易貨物の発掘 【新規】《重点》
- (3)秋田港と高速道路を結ぶアクセス道路整備 【継続】《重点》
- (4)国際クルーズ船の誘致促進 【新規】
- (5)秋田港周辺地への貸工場の設置 【新規】

## 4. 地域経済活性化に向けた

### 各地域や業界の意見の反映を！

- (1)Aターン対策への取り組み強化 【継続】
- (2)ハピネッツタウン構想による6次産業化の推進 【新規】
- (3)被爆建造物「旧日本石油秋田製油所倉庫」の保存及び歴史資料館の設置  
【新規】



- (4)西部工業団地へのアクセス向上【新規】
- (5)農業試験場跡地の管理研修施設を地域住民へ利用拡大【新規】
- (6)八橋地区へのお台馬公園整備【新規】
- (7)事業者を巻き込んだスマートシティの拡大展開【新規】
- (8)クラウドコンピューティングサービスの導入【継続】
- (9)最低制限価格率の引き上げ、低入札調査基準価格  
および失格判断基準の改善【継続】
- (10)電子入札システムの更改【新規】
- (11)デスティネーションおよび国文祭関連事業の地元発注【新規】

## **5. 融資・助成制度の拡充を！**

- (1)日本政策金融公庫のマル経融資に関する利子補給【継続】
- (2)起業者に対する育成支援策の強化【継続】

## **6. 商工会議所事業補助金の同額補助を！**

# 1. コンパクトシティの実現へ向け 更なるまちづくりと都市観光の推進を！

## (1) 中心市街地の歩行者空間整備

### ① 仲小路の全天候型歩行者空間整備ならびに歩行者専用道路化の推進

秋田駅からエリアなかいちへ繋がる仲小路は、中心市街地における主要な歩行者動線として多くの来街者が利用しております。

しかしながら、大屋根から西は屋根もなく、歩車共存となっていることから、木質化のアーケードなど雨や雪を避けるための歩行者空間整備について地元との検討組織を立ち上げるとともに、多くの人々が来街する土日祭日については歩行者専用道路として規制する等、中心市街地における歩行者のメイン動線として相応しい空間整備を推進していただきたい。

### ② 仲小路西側街区の融雪および街路灯の早期整備

仲小路は、エリアなかいちのオープンにより東西に分断され、秋田駅からエリアなかいちの間は、融雪および街路灯が整備されたものの、エリアなかいちから2丁目橋の間は未整備のままとなっております。

この未整備区間は、中央街区と川反飲食街、大町地区を結ぶ重要な歩行者動線であり、このままでは中心市街地全体の連動性が損なわれることから、この区間の融雪および街路灯の整備を進めていただきたい。

### ③ 中通地区と川反飲食街を直接結ぶ歩行者動線の整備と誘導表示設置

秋田を代表する繁華街・川反については、これまでも「場所が判りにくい」「行きにくい」との評判が多く、エリアなかいちのオープンによる仲小路の東西分断により、判りにくさ、行きにくさにますます拍車がかかっております。

また、歩行者がみずほ銀行前から川反飲食街に向かうには、左右の横断歩道や歩道橋を利用しなければなりません。

つきましては、みずほ銀行前から2丁目橋交差点を川反飲食街に向け直接横断できるように、例えばスクランブル交差点、スカイデッキ、地下道などの方法をご検討いただきたい。

さらに、駅前及び中通地区に宿泊した県外客などが川反飲食街に足を運びやすいよう、大きく目立つ案内誘導表示を中通地区に設置していただきたい。

#### ④ 都市観光の顔としての川反通り環境整備

川反飲食街は、都市観光の顔の一つであり、平成 25 年度のデスティネーションキャンペーン、平成 26 年度の国民文化祭などで、今後も全国から多くの観光客の来街が予想されます。

全国的にも名の通った歓楽街は、観光客等が回遊しやすく安心・安全な歩行者環境に整備が進められておりますが、現在の川反通りは、歩車道の区別もなく、電線・電柱も多く、冬期には雪で歩きにくいなど、来県した観光客が回遊しやすい環境にはありません。

つきましては、川反通りのカラー舗装、電線地中化、融雪対策を進めるなど、都市観光の顔として相応しい環境に整備していただきたい。

## (2) 中心市街地の賑わい空間の更なる整備

### ①秋田市大町のコミュニティ施設整備への支援

現在、秋田市大町商店街振興組合が主体となり、旧・秋田魁新報社跡地の一角に、新たな大町地区のコミュニティ施設を創り出す調査検討事業を国の支援を受け進めているところであります。

大町地区は商業施設の撤退や未利用地など多くの課題を抱えておりますが、本調査検討地区はエリアなかいちと大町地区を結ぶ新たな賑わいの核になると期待されることから、市からも引き続き調査検討事業及び具現化に対する支援をしていただきたい。

### ②イベント会場の全天候型対策の推進

中心市街地には、お陰様で「アルヴェ」「アゴラ広場・大屋根」「アトリオン」「エリアなかいちのにぎわい広場」などの賑わい空間が整備され、各種団体がイベントを企画する等、賑わい創出の環境整備が進んだところです。

しかしながら、「アゴラ広場」と「にぎわい広場」は、風雨や降雪時には利用できず、イベントごとにテントを用意する等により対応を図っているところではあります。費用の捻出にも限界があります。

つきましては、各イベントが全天候型で対応できるように、アゴラ広場およびにぎわい広場で使用できる大型テントなどを確保していただき、低料金で貸出するなどの支援をしていただきたい。

### ③美大・社会貢献センター等の中心市街地への設置

美短の4年制大学化については、平成25年4月の開学に向け認可手続きや、校舎の増築などの準備が着々と進められております。

開学後は、市民が大学をより身近に感じられるよう、中心市街地への社会貢献

センターや共同キャンパスなどの設置が予定されておりますが、是非早期に実現されるよう推進していただきたい。

#### ④ 産業会館跡地の有効活用の促進

中央街区と川反・大町を結ぶ結節点の1つに産業会館跡地があります。この地は、中心市街地に一体感を持たせるうえで重要な場所と考えられます。

現在、この地は、秋田市が県から無償貸与を受けイベント等に貸出しておりますが、竿燈まつりの屋台村以外、ほとんど利用されておられません。

つきましては、この地の活用策を民間から広く公募するとともに、その活用を促すアイデアについて助成するなど、積極的な利用を促進していただきたい。

### (3) 中心市街地への来街促進と回遊性向上

#### ① 広小路・中央通の一方通行解除

秋田市中心市街地活性化基本計画のコンセプトは「千秋公園と連携した城下町ルネッサンス」となっております。このコンセプトを具現化するためには、千秋公園とエリアなかいち、およびその周辺地域が一体となって賑わい再生することにあり、一方通行がその妨げとなっております。

例えば、竿燈まつりや大型イベントなどの際には、広小路を歩行者天国にできる環境整備が必要で、このことについては、広小路・中央通の一方通行を解除することで、広小路を歩行者天国としても中央通りが車交通の軸線として活用できます。

つきましては、秋田市と当所で一方通行解除についての協議を深め、一致協力して県及び県警に実現方を要望したいので、ご支援をお願いいたします。

#### ② 自転車で来街しやすい環境づくり促進

自転車の来街環境は、アトリオン地下駐輪場が今年度より無料化され、また7月にはエリアなかいちに270台の無料平面駐輪場が整備され、昨年よりは改善されております。

しかし、現状の無料スペースでは、まだまだ気軽に駐輪できる台数が少ないことから、現状の自転車等放置禁止・規制区域の駐輪状況を確認いただき、是非とも適正な形で規制緩和していただきたい。

また、来街者が気軽に中心市街地内を回遊しやすいよう、秋田駅前の観光案内所で実施している自転車の貸し出しを拡大し、バイクシェアリングできる環境整備を進めていただきたい。

### ③ 秋田駅西口バスターミナルの建替え促進

秋田駅西口バスターミナルは、築29年が経過し、鉄骨柱などの腐食が進み老朽化が進んでおります。

今後、デスティネーションキャンペーンの本番を控え、多くの県外客をお迎えすることから、県都の玄関口としての景観にふさわしいものとなるよう早急に建替えるべきと考えます。

つきましては、県産材を活用した木造・木質化に配慮した建替えとなるよう、「森林・林業・木材産業づくり交付金」を活用した建替えに、県と連携してご支援いただきたい。

### ④ 川尻広面線横町工区の25年度事業着手

本道路は寺町工区の事業化が進んでおり、横町工区の完成により中心市街地の南側を貫通する交通の動脈として期待されております。

横町工区については、今年7月、県と横町通りまちづくり推進協議会との間で「幅員25m・用地買収方式」による事業着手に向け協議をいたしております。

つきましては、計画通り平成25年度から確実に事業着手されますよう県に働きかけていただくとともに、地元協議会に対してご支援をお願いいたします。

### ⑤ 中心市街地へのアクセスを改善する各種道路計画の見通しの明示

エリアなかいちのオープンにより、中心市街地への来街が増加しておりますが、一方、都市計画決定されていて未だ着手されていない道路もあり、中心市街地へのアクセスの隘路となっております。

例えば、千秋広面線は、手形陸橋から久保田町交差点の間が3車線となっておりますが、エリアなかいちのオープンにより交通量も変化していると考えられますので、早期に4車線化をはかっていただきたい。

また、南通りと牛島を結ぶ「秋田環状線」の中通6丁目交差点～秋田南中学校前区間の整備、同じく「広小路・牛島線」の聖霊高校前から笹町通りにかけての拡幅及び一方通行解除については、中心市街地への隘路となっていることから、将来の整備方針を明示していただきたい。

## (4) 商店街等活性化支援策の充実

### ① 地域イベントを支援する市民ボランティアの組織化

地域イベントを盛り上げ、まちの元気を発信していくためには、秋田市で今夏行われた映画撮影でも見られたように、市民ボランティアの活動が大きな役割を果たします。

しかしながら、それぞれの実施主体は、毎年個別に運営スタッフを確保しているのが現状で、人員確保とともにアルバイト費用がイベント経費を圧迫する要因の一つとなっており、こうした現状を打開するためには、イベントを支援する市民ボランティアが組織化され、複数の様々なイベントで運営スタッフとして活躍する仕組みが求められております。

特に、中心市街地では賑わい形成のための広場が複数整備され、イベントも多数開催されるなど市民ボランティアの活躍の場も広がっておりますので、こうした市民ボランティアの組織化について、市が率先して取り組んでいただきたい。

## ② 中心市街地活性化協議会に対する支援

同協議会は、商店街関係者を中心とする「中心市街地賑わい創出ネットワーク研究会」を組織し、中心市街地商店街等やまちづくり団体と行政関係者との情報共有などを図っているほか、中心市街地を回遊するイベントの実施や個店等の情報発信事業等を実施しております。

次年度についても、継続して中心市街地の賑わいづくりに向け取り組んで参りますので、来年度も今年度と同額の運営費を助成するとともに、回遊イベント等を実施する際には、ご支援いただきたい。

## ③ 中心市街地商業集積促進補助金の継続

中心市街地への商業集積の誘導については、本制度を活用し新規起業者を中心に、一定の成果があったものと認識しております。しかしながら、未だに広小路、中央通りには未利用の空店舗が存在していることから、次年度以降も同制度を継続し、中心市街地商店街の連担性向上に向けた支援をお願いしたい。

## ④ 商店街街路灯整備支援の充実

現在、商店街街路灯の電気料については市から助成を得ているが、ほとんどの商店街は、会員数の減少により街路灯の維持費を賄うのが精いっぱい、本来の商店街活動ができず、老朽化した街路灯の改修にも手が回らない状況にあります。

一方、各町内の街路灯については市の負担でLED電球への切り替えが進められ、維持費の削減にも繋がっております。

つきましては、商店街の街路灯についても地域の安心・安全に寄与していることから、LED電球への切り替えを促進する補助制度を創設するとともに、電気料の助成率についても見直しをしていただきたい。

## ⑤ 商店街ソフト事業補助金の拡充

市内の商店街は、会員の減少など組織の弱体化から、地域の賑わいを創出する

イベント活動の単独実施が困難な状況にあります。

つきましては、現在の商店街ソフト事業の補助金額を確保するとともに、複数の商店街による連携事業や新たな工夫を取り入れた活動などに対し優遇措置を講じるなどの制度拡充を図っていただきたい。

また、こうした商店街へのソフト事業補助について、他県では多くの商工業者が加盟している協同組合も助成対象としている事例もあることから、秋田市においても協同組合を助成対象とするよう制度の拡充を図っていただきたい。

## ⑥ 商店街空き店舗対策の拡充

商店街の連担性を確保し賑わいを創出するためには、空き店舗への入居促進が不可欠ですが、新たな入居にあたっては既存設備の改修等に費用がかかり、空き店舗の解消が進まないという相談も受けております。

特に、高齢化に伴い来店者へのトイレの貸出など水回りの整備を必要とするケースが多いことから、現状の空き店舗補助金の要件を拡充し、①当所起業塾の受講終了者や地域商店街への新規加入者などに対する優遇措置の創設、②店舗形成上必要とする設備（トイレや水回り）改修等への補助率アップ—等を図っていただきたい。

# (5) 都市観光の振興へ向けた取り組み強化

## ① 映画ロケの更なる誘致に向けた環境整備

秋田市をロケ地とした映画「遠くでずっとそばにいる」は、秋田市からの支援も得て、来年6月から全国公開される予定となっております。

一方、秋田市が整理・データベース化を進めている「油谷これくしょん」は、撮影美術品としても高く評価されており、秋田公立美術大学とのコラボレーションによるレプリカの製作など、新たな可能性も秘めております。

こうしたことを踏まえ、今後も映画のロケを誘致するには、官民一体となった支援組織（フィルムコミッション）の設立やロケ地としてのPR等が不可欠であり、市においても支援組織の設立へ向け具体的に検討していただきたい。

## ② カジノ法案の区域指定へ向けた取り組みの推進

国内のカジノ施設の合法化を目指した「IR推進法案」が成立すると、国は地方自治体の申請に基づきカジノ施行区域を指定することにしております。

当所では、県からの助成を得て「IR法案専門委員会」を設置し、県民向けの意識調査・機運醸成などの事業を行っておりますが、区域指定に向けては、指定を希望する地方自治体が地域活性化計画との整合をはかり、カジノを含む特定複合観光施設の必要性を構築する必要がありますので、是非、秋田市にお

いて区域指定に向けた取り組みを進めていただきたい。

### ③ 竿燈まつりの賑わい創出を検討する組織の設置

竿燈まつりは、秋田市が事務局となり実行委員会組織で運営しており、本番の竿燈演技や妙技会などのほか、竿燈の県外派遣、屋台村等の賑わい創出など、多様な業務を担っております。なかでも近年は、竿燈まつり本番に合せた賑わいを創出するため、民間事業者とタイアップした屋台村や当所が実施しているご当地グルメフェスティバルが好評で、こうした集客力を川反や山王の飲食街など、更に幅広く波及させる工夫が求められております。

つきましては、民間事業者の幅広い意見やアイデアを結集させるため、竿燈まつり実行委員会の中に「賑わい創出委員会」を設置していただきたい。

### ④ 佐竹史料館の充実化

藩政時代の秋田の歴史や文化を紹介する施設に「佐竹史料館」と「御隅櫓」がありますが、このうち「佐竹史料館」は耐用年数を超えており、展示スペースがあまりにも少なく、また、収蔵庫は満杯で新たな史料を受け入れられない状況にあります。

佐竹史料館は、千秋公園内にあることから建築制限もありますが、中心市街地活性化の基本コンセプトである「城下町ルネッサンス」を具現化する核の一つとして貴重な施設であることから、施設の更新も含めた充実化の方向性を早急に検討していただきたい。

### ⑤ 秋田落の中心市街地における保存拡充

秋田落は、秋田市の伝統工芸にも使われるなど、秋田市ならではの素材のひとつですが、現在は、秋田市観光レディの落刈り写真の撮影を主な目的として仁井田地区で保存されており、観光客が実際に見て触れることが難しい現状にあります。

秋田落は、佐竹の殿様が「唐傘などいらぬ」と自慢するなど、中心市街地の基本コンセプトである「城下町ルネッサンス」とも合致することから、是非とも観光客が訪れやすい中心市街地にも株分けして保存・育成し、観光資源として積極的に活用していただきたい。

### ⑥ 食のイベントにおける臨時営業許可の見直し

プレ・デスティネーションキャンペーンも始まり、県内ではそれぞれ所轄の保健所から臨時営業許可を得て、食によるおもてなしイベントが各種開催されております。



秋田は言わずと知れた「米の国」ですが、保健所からは、きりたんぼやだまこ餅の提供は許可されますが炊き立ての新米を提供することは許可されません。

また、提供するメニューによっては飲食店営業と喫茶店営業の両方の手数料が徴収されたり、連続20日未満の営業が条件のため、今回の食の賑わい博覧会・ウェルカムロードでのドリンクコーナーのように、同一場所で長期間臨時営業する場合は、その都度の許可が必要で、出店の負担になっております。

他県では、炊き立てのコメの提供も許可されているなど、臨時営業許可の内容は各県の事情に応じて要綱で定められていると聞いておりますので、炊き立てのコメの提供と手数料徴収の減免措置について、市から県に働きかけていただきたい。

## ⑦ 秋田市観光クチコミ大使への市観光施設の入場料免除

当所では、秋田市の観光をPRするため、秋田市に縁のある経済人や秋田市に赴任経験のある方々40人を「秋田市観光クチコミ大使」に委嘱しております。

大使は、クチコミで秋田市の魅力を発信し、秋田市への誘客を促進することから、市内の観光施設の魅力を十分理解していただく必要があります。

つきましては、大使が市関連の観光施設を訪問する際、入場利用が免除となるよう取り計らいをお願いいたします。

## ⑧ 秋田駅・秋田空港での歓迎民謡放送の推進

秋田駅については中央改札口向かいの市観光案内所で、秋田空港については到着ロビーで、それぞれ市から働きかけいただき、7-8月の間、試験的に放送していただきました。

このうち、秋田駅については、JRと駅構内への放送設備の設置へ向けて協議を進めていると伺っておりますので、何卒必要な経費を来年度予算に計上していただきたい。

また、秋田空港については、到着ロビーに向かう階段や機内荷物の受け取りカウンター部分での放送について、協議を進めていただきたい。

## ⑨ 秋田市中心市街地でのW i F i環境の整備促進

スマートフォンなどの情報端末は、国内外からの来街者が、観光施設や飲食店情報を入手するためのまち歩き観光のナビゲーションとして、必要不可欠なものとなりつつあります。

秋田市でも、「アキタッチ」や多言語に対応した「おもてナビ」で観光情報を積極的に発信しておりますが、こうした情報をスマートフォンなどの利用者が安価で快適に利用できるためにはW i F i環境の整備を進める必要があります。

山梨県では、観光庁からの支援も得て、自治体が率先してW i F i環境の整備

を啓発・助成していることから、秋田市においても中心市街地のW i F i 化に市が率先して啓発・助成し、情報発信力を強化していただきたい。

## ⑩ 国民文化祭開催に併せた「東北六魂祭」の誘致

「東北六魂祭」は、東北地方の復興への活力を国内外に向けてアピールするため、昨年は仙台市、今年は盛岡市において開催され、来年は被災地優先で福島市での開催が予定されており、以降順次東北各県で開催されることになっております。

2014年には、本県において国民文化祭の開催が決まっており、本県の民俗芸能など多彩な文化を広く内外にアピールすることから、秋田県と連携し、国文祭開催に併せて「東北六魂祭」を誘致していただきたい。

また、国文祭を盛り上げるためにも、来年是非イベントを企画・実施していただきたい。

## ⑪ 秋田美人ご膳事業への支援

プレ・デスティネーションキャンペーン期間中、当所では市内50店舗の協力を得て「秋田美人ご膳」を提供しております。この「秋田美人ご膳」は、全国のJRの窓口で販売しているほか、秋田市の「食のにぎわい博覧会」の事業としても取り上げていただき、PRにご協力いただいております。

当所では、「秋田美人ご膳」を鍋料理で観光客をおもてなしする目玉事業として定着させてまいりたいと考えておりますので、今後とも秋田市の誘客事業と連携し、効果的な事業となるよう一層のご協力をお願いいたします。

## ⑫ 「秋田かやき」への支援

当所が支援している秋田かやき協議会は、ご当地グルメとして秋田かやきの地元普及をはかる「かやき四天王決定戦」の開催や、市民ボランティア「秋田かやき連」の募集、市民からレシピを募る「地産地消我が家のかやきコンクール」の実施を通じ、市民を巻き込んだ食の魅力向上に取り組んでおります。

「秋田の食」は秋田市の観光の大きな魅力のひとつであり、県外で開催されるイベントへの出展は、全国に「秋田市」「秋田の食」をアピールする絶好の機会であることから、出展の際は、是非秋田市からも観光PRのため同行するなど支援していただきたい。

## 2. 新庁舎建設等に関する地元元受発注の推進を！

秋田市の新庁舎建設工事等の発注について、地元経済への波及効果の観点から地元企業が元請受注できるような事業方式および入札方法にさせていただくとともに、本建設に伴う付帯工事、移転により必要となる発注物等についても、地元企業に広く経済効果が波及するようにしていただきたい。

## 3. 秋田港の利用拡大へ向けた取組み強化を！

### (1) 秋田港利用のインセンティブ措置拡大と上海航路の開設

秋田港は、4月に国際コンテナターミナルが竣工し拡張工事も進められておりますが、国際コンテナ取り扱い実績は震災による太平洋側港湾の代替機能による需要が落ち着きつつあることから、更なる需要を掘り起こすためには、港湾利用のインセンティブ措置と取扱貨物の多い港への直行航路の開設が必要です。

このうち、入港料や岸壁使用料などのインセンティブ措置は、沿海州航路の利用促進に限定されておりますが、釜山航路をはじめとする既存航路についてもインセンティブ措置を拡大するとともに、取扱貨物の多い上海との直行航路の開設へ向け、県とともに船社に働きかけていただきたい。

### (2) 延邊州との貿易貨物の発掘

当所では、9月4日に中国国際貿易促進委員会延邊支会との間で、環日本海を結ぶ海上コンテナ輸送回廊の開設を含む経済交流の協定を、秋田市および秋田市議会同席のもと締結し、今後、貿易促進へ向けた具体的な取り組みを進めることにしております。

協定の締結に当たり、延邊州では石炭を産出することから、秋田市施設で使用するコークスを新たな貿易貨物として取り扱うことが提起されました。

延邊州は、中国東北3省との玄関口であり、メインカーゴを発掘することが、新たな貿易取引の促進に大きく寄与し、秋田港の利用促進にも繋がることから、是非とも秋田市施設で延邊州産のコークスを使用していただきたい。

### (3) 秋田港と高速道路を結ぶアクセス道路整備

秋田港を日本海側の物流拠点として機能させるためには、高速道路との一体化が不可欠であります。このため、秋田港と秋田北IC間を結ぶ暫定的なアクセス

道路として、下新城東西線～横山金足線～秋田北インター線を經由したルートを大型トレーラーの通行に耐えうるよう早期整備を要望したところ、平成28年を目標に整備を進める意向を示していただきました。

特に、国道7号からJRを横断する部分、秋田北インター線との接続部分については、対処すべき課題も多いことから、十分に県やJR等と協議を進め、目標通りに整備していただきたい。

#### (4) 国際クルーズ船の誘致促進

国際クルーズ船は、中国・韓国・東南アジアから日本への寄港が増えており、また、長崎、神戸、横浜などの主要港に加え、地方港を加えるプランが増えてきております。

クルーズ船の乗客は、寄港地でのオプションツアーに参加するほか、ツアー参加者以外は時間内で最寄りの観光・飲食・物販施設を利用されますが、利用単価が高く通常の観光客よりも経済効果が大きいことから、県や関係機関と連携して、是非とも国際クルーズ船の誘致に取り組んでいただきたい。

#### (5) 秋田港周辺地への貸工場の設置

市内中小製造業では、大型製品の製造を受注した場合、完成品の規格では道路運送法の規定に合わず、分解しての輸送を余儀なくされるケースや、輸送コスト（横持ち運賃）が高く、受注機会の喪失を招くことがあります。

大型製品の受注は常時発生するとは限らず、中小企業が単独で輸送に適した場所へ工場を建設することは困難であることから、海上輸送を考慮し、秋田港の周辺地に、市内中小企業が必要に応じて共同利用できる貸工場を設置していただきたい。

## 4. 地域経済活性化に向けた

### 各地域や業界の意見の反映を！

#### (1) Aターン対策への取り組み強化

Aターン対策の一環として、NPO法人ふるさと回帰支援センターが首都圏で毎年「ふるさと回帰フェア」を開催しております。

このフェアは、田舎暮らしやグリーンツーリズムの推進を目的に開催され、今年は、本県から2市2町が参加しております。

首都圏から秋田へAターンを希望する方々は、ある程度の都市機能が整備された秋田市を移転先に望む声が多いものの、本フェアに秋田市から参加していないことから、具体的な相談が進展しない状況にあります。

つきましては、秋田市においても来年度から本フェアに参加していただき、秋田市へのAターンを促進していただきたい。

## **(2) ハピネッツタウン構想による6次産業化の推進**

秋田プロバスケットボールクラブ(株)では、農業参入と旧上新城中学校校舎の活用を行うハピネッツタウン構想の検討を進めております。

しかしながら、構想している地域が市街化調整区域であるため、構想の事業化が困難なことや、校舎の改修費用の捻出など多くの課題があります。

つきましては、校舎周辺には無農薬栽培をしている農家や温泉、陶芸教室などがあり、ビジネス展開する素材が多数存在し、地域の活性化に寄与する構想であることから、実現に向けて特段の支援と助言をいただきたい。

また、今年9月に設置した「秋田市6次産業化懇話会」の議論を深め、6次産業化に向けた具体的な推進を図っていただきたい。

## **(3) 被爆建造物「旧日本石油秋田製油所倉庫」の保存及び歴史資料**

### **館の設置**

終戦前夜の土崎空襲の痕跡が残る被爆建造物「旧日本石油秋田製油所倉庫」を所有するJX日鉱日石エネルギー株式会社では、老朽化に伴い解体を検討していると伺っております。

同倉庫は老朽化が著しく現状のままの保存は極めて困難であります。戦争の悲惨さを後世に伝えるための貴重な歴史的資源であることから、同倉庫を旧土岐支所跡地に移築保存するとともに、北部地域の歴史的伝統芸能等を後世に伝える資料館を設置していただきたい。

## **(4) 西部工業団地へのアクセス向上**

西部工業団地は、入居企業の増加と就業人口の増加により、朝夕の朝夕の出勤・帰宅時に渋滞が発生しております。

特に、県道「寺内雄和線」から西部工業団地に入るT字路（ローソン新屋鳥木町店前）は信号機がなく、車両のみならず通学者の安全も脅かされていることから、早急に信号機を設置して安全な交通環境を整備していただきたい。

また、西部工業団地に向かう日吉神社前交差点から新屋駅前間も、都市計画道路に位置づけられているものの未着手のままで、歩道もなく幅員も狭いため、ラッシュ時には円滑な通行に支障が生じていることから、改善措置を講じていただきたい。

## (5) 農業試験場跡地の管理研修施設を地域住民へ利用拡大

仁井田地区には、地域住民が研修会などを開催できる施設がなく、市民サービスセンターの設置を要望してきた経緯がありますが、南部市民サービスセンターは御野場地域センターを改築して整備することとなり、牛島にある現在の南部公民館も現地改築する方向と伺っております。

幸い、仁井田地区には、農業試験場跡地に県と市が協働で整備する「県都秋田市食と農業未来づくりプロジェクト」で、新規就農者等の研修や営農エリアを整備する施設の建設が計画されていることから、同施設を仁井田地域の住民が交流の場としても利用できるよう、検討していただきたい。

また、平成25年までに用地買収を予定している市道「仁井田仲谷地五十五枚線」については、仁井田地区から日赤病院に直結する路線であり、緊急車両等のアクセスの向上を図るためにも、早期に整備していただきたい。

## (6) 八橋地区へのお台馬公園整備

八橋地区で整備が進められている「お台馬公園（仮称）」は、地域の交流の場とともに、油田施設を学習する新たな観光スポットとして期待されています。

地域ではこの公園を活用し、秋田駅から千秋公園、八橋運動公園を通り、秋田城址へ至る観光ルートを設定し、地域の賑わいを形成することも計画しておりますが、河川地区という制約もあることから、県と連携して、公園整備が円滑に推進できますよう支援していただきたい。

## (7) 事業者を巻き込んだスマートシティの拡大展開

秋田市では、「環境立市あきた」を具現化するため「あきたスマートシティ・プロジェクト」を推進しておりますが、その中で、地域ESCO事業を活用した市有施設の省エネ化に取り組んでおります。

この地域ESCO事業について、市内事業者への適用も検討されていると伺っておりますが、官民挙げて地域の省エネルギー化を推進することが肝要と思われるので、是非とも民間事業者にも拡大展開していただきたい。

また、電子地域通貨についても検討されておりますが、早急に、様々な商業団体や交通事業者との実務的な協議を進め、現実的な計画を策定していただきたい。

## (8) クラウドコンピューティングサービスの導入

「あきたスマートシティ・プロジェクト」では、市所有の社会インフラ情報の一元的に管理するため「スマートシティ情報統合管理基盤」を構築することにしており、エネルギー管理についてはクラウド化を進めると伺っております。

行政の情報管理においては、事務の効率化やコスト削減のみならず、災害時の業務継続計画にも有益であり、県内でも自治体クラウドの導入が漸次進められて

いることから、秋田市においても新庁舎建設に併せ情報システム全体のクラウド化をセキュリティ確保に配慮しながら積極的に推進していただきたい。

併せて、秋田市では今年9月から公式ツイッターを始めるなど、情報通信技術（ICT）を活用した情報発信に取り組んでおられますが、上新城地区など市内の一部地域では光回線の未提供エリアとなっていることから、市民があまねく超高速ブロードバンドサービスを利用できる環境を整備していただきたい。

## **(9) 最低制限価格率の引き上げ、低入札調査基準価格および失格判断基準の改善**

秋田市では、平成20年11月に最低制限価格および調査基準価格の引き上げや失格判断基準の見直しが行われておりますが、いまだに落札額と実質工事額との乖離が著しく企業利益確保が困難となり雇用の確保や技術者養成など企業活動にも影響を及ぼしております。また過度なダンピング受注が増加し下請け業者へのしわ寄せや工事の品質確保などの観点からも憂慮される現状にあります。

つきましては、最低制限価格率の引き上げならびに、国や県の改善状況に合わせて低入札調査基準価格及び失格判断基準を見直ししていただきたい。

## **(10) 電子入札システムの更改**

秋田市の電子入札システムにおける電子証明書は、現在、認証CDにのみ対応できるシステムとなっておりますが、多くの認証CDは来年8月に有効期限を迎えます。

つきましては、応札者の利便性向上のためにも、秋田市の電子入札システムをICカード認証にも対応できるようにシステムの更改を検討していただきたい。

## **(11) デスティネーションおよび国文祭関連事業の地元発注**

来年のデスティネーションキャンペーンおよび再来年の国民文化祭に向け、多くの催事が計画されており、イベント企画やパンフレット印刷などの発注機会の増加が見込まれております。

こうした取り組みは、多大な行政負担や県内企業の負担金で賄われることから、企業育成や地域振興の観点からも、是非関連事業の発注については、地元へ広く経済効果が波及するようにしていただきたい。

## 5. 融資・助成制度の拡充を！

### (1) 日本政策金融公庫のマル経融資に関する利子補給

政府系金融機関は、国・県・市や信用保証協会と連携した民間の金融機関からの融資と並ぶ資金調達先として、事業者の経営に大きく貢献しております。

なかでも日本政策金融公庫のマル経融資は、小規模事業者にとって身近な支援策となっており、今年11月からのセーフティネット保証の対象業種縮小、来年3月末の金融円滑化法および県経営安定資金緊急経済枠の終了などにより、融資斡旋相談の増加が見込まれております。

つきましては、マル経融資の一層の利用促進をはかり、小規模事業者の経営の安定をはかるため、本融資に関する利子補給をしていただきたい。

### (2) 起業者に対する育成支援策の強化

市の創業資金は年利2.45%と、県の創業支援資金に比べ利息と保証料を合わせると使い勝手の良い制度となっておりますが、国の新規開業資金や女性・若者・シニア起業家資金は2.15%と更に使い勝手が良くなっております。

つきましては、当所が実施している創業塾修了者に県の創業支援資金が利息優遇しているように、市においても優遇措置を新設していただき、国の制度並みに利息を軽減していただきたい。

## 6. 商工会議所事業補助金の同額補助を！

当所では、「経営安定支援」「起業・創業者の育成支援」「企業競争力強化支援」など、市内中小・小規模事業者に対する経営支援活動を行っております。

平成25年3月の金融円滑化法の終了により、金融相談案件の増加が見込まれますが、これらの資金繰り対策には経営改善計画作成や業績悪化原因の把握、改善策の策定など、関係機関と連携したより詳細な事業計画の策定が求められます。

こうした状況を踏まえ、当所としても、事業継続への支援、経営安定化に対し支援体制を強化してまいりますので、今年度と同額の事業費補助金を交付していただきたい。